

第9回春の種子交換会(2023年春)のご案内

東京山草会 種子交換委員会

今年も春の種子交換会を実施したいと思います。

早春に開花して、早々に種子を作り、その種子を地表に落とす春植物の場合、その種子を秋の種子交換会まで安定して保存する方法が、現在では確立していません。例えば、種子交換委員会では一部の種類について、ピートモス等で常温保管した種子を冬に播いてテストしていますが、良好な結果は未だでておりません。そのため、今年も春の交換会を行います。

昨年の交換会では保湿剤としてモフミン、水苔、スポンジ、パーライト等を使用しましたが、播種後の発芽状況はいかがでしょうか。播種された方の播種記録をお送りいただきますようお願いいたします。

春植物は人工授粉すると、よく結実します。ぜひ、多種、多数の種子を採種して、参加くださるようお願いいたします。特に早春は受粉の虫が飛んでいないことが多いようです。高層階で育てられる場合も、虫が飛んでいないことが多いようです。

野生株からの採種は、禁止されている場所に注意して、そこでは絶対に採種しないようにしてください。

1. 参加資格等

- 参加資格については、次の種子提供者が当てはまります。
 - 今回(第9回)の春の交換会に種子を提供された方(優先権が高くなります)
 - 今年(第9回)の秋冬の交換会(39回)に種子を提供された方
 - 今年(第9回)の秋冬の交換会(39回)以降に種子を提供された方
- 種子を提供されない方も、一般メンバーとして参加して、種子を申し込むことができます。参加費は配布できないことも予想されるので、今回は必要ありません。種子の配布は種子提供者が優先されます。

2. 対象種子

- 対象となる種子は、6月5日(消印有効)までにこちらに到着した種子です。特に、下表に示した種子は、秋冬の交換会まで保管が難しいので、対象です。どうしても期日まで完熟しない場合、提供リストに記入していただいた後、6月26日(必着)までに種子をお送りください。ただ配布まで時間がないので、できるだけ最小限にしてください。今まで、後送分で何回も混乱しています。
- できるだけ完熟した種子を採種してください。親株から早々に離れてしまう種類が多いのですが、親株から栄養を貰っている時間が貴重です。栄養不足の種子はシイナになったり、寿命が短くなったり、発芽能力が低下してしまいます。コバイモ、フクジュソウ、雪割草のように実が緑のまま、株が枯れてしまうようなものについては、採種した莢付きを、湿らせた水苔培地(清潔な培地であればよい)の上で後熟させると発芽能力が高まることが知られています。未熟な種子は保湿状態で密封保管すると、カビたり、腐敗しやすくなります。
- オキナグサのタネは、弱い風でも飛んで行ってしまう頃に、毛の部分何本かまとめて左手の指でつまんで、そっと採種して、指で挟んだまま、毛の部分をタネから数mmの所をハサミで切り取っていただくと、後の処理や播く時にとっても楽になります。やっただされば、助かります。

- 栽培地によっては期限までに採種できないものがあります。その際は、採種したら、秋まで待たずに、交換会の担当者へ送ってください。交換会の担当者が保湿管理して、秋冬の交換会まで保管したいと思っています。(例えば、トガクシショウマやサンカヨウなど)
- 春の交換会は多忙な時期となり、担当するスタッフは一人だけなので、秋冬の交換会に提供していただいても発芽可能な種子は、できるだけそちらへご提供いただきたいと思います。

ウマノスズクサ科	カンアオイ類、サイシン類
キンポウゲ科	フクジュソウ、オキナグサ、セツブンソウ、雪割草、シロカネソウの仲間、イチゲの仲間、オウレン類、ヒメリュウキンカ
ケシ科	ヤマブキソウ類、エンゴサク類、コマクサ
シュロソウ科	ショウジョウバカマ
センリョウ科	ヒトリシズカの仲間
メギ科	トガクシショウマ、サンカヨウ、ルイヨウボタン、タツタソウ
ユキノシタ科	チャルメルソウ
ユリ科	コバイモ類、カタクリ、
リンドウ科	春咲きのリンドウの仲間
その他	ゲンゲ(レンゲ)、春咲きの球根植物、アヤメ類、スイセン類
サクラソウ科	サクラソウ類、シクラメン類

3. 種子の送付方法

- 採種した種子については、絶対に指で直接触れないようにしてください。コバイモ類などで、触れることで発芽が困難になる例が示されています。#
- 上記の種子の中では乾燥すると、発芽能力を失うものがほとんどなので、採種した種子はできるだけ早くお茶袋に、1種類一袋ごとに入れ、そのお茶袋を乾燥しないようにチャック付きのポリ袋に入れ、ポリ袋には湿らせたミズゴケを入れて、送付するまで冷蔵庫に保管してください。その時、ミズゴケは、びしょ濡れでなく過剰な水を絞ってください。ミズゴケが種子に直接触れないようにするほうが、種子を過湿にしないために有効です。(但し雪割草は後熟のため常温で保管してください)。
- このような状態の種子にはカビが生えやすいので、速やかにお送りください。袋には種名を明記してください。(種名は、お茶袋にボールペンで直接書くこともできますが、市販のラベルシールなどが使用できます。) 送付先は、この案内状の最後に記載しています。
- 一部の種類については、若干乾燥した方が、カビが生えにくくなるという報告がありますが、乾燥の見極めがとても難しいと思われます。しかし、その方がよいとお考えの場合には、おまかせします。
- 次の種類の種子については、乾燥種子で送付しないようにお願いします。
保湿状態(お茶パックに入れ、直接触れないように湿らせた水苔を入れ、全体をチャック付きのビニール袋に入れる)で送ってください。乾燥状態で送っていただいた場合、折角ですが種子リストには掲載致しません。
コバイモ類、フクジュソウ類、セツブンソウ類、メギ科(タツタソウ、トガクシショウマ、サンカヨウ等)、ケシ科(ヤマエンゴサク、エゾエンゴサク、ヤマブキソウ)、カンアオイの仲間、カタクリ、雪割草、ショウジョウバカマ、ヒトリシズカの仲間、チャルメルソウの仲間
- 分包は基本的には種子交換会委員会で行いますので、種類ごとに一つの袋にまとめてお送りください。もちろん、慣れておられる方の場合、分包して頂くことはなんの問題もありません。分包用のポリの不織布袋がご入用の方はご連絡ください。(西田まで) セツブンソウ種子については、一つの袋に大量に入れず、できればパーライトをいれて、種子同士がくっつかな

いようにしてお送りください。種子同士がくっついた形で保管すると、カビが生えやすいことがわかっています。

- ・ 別紙、提供一覧表の各項目に記入していただき、種子と同封してお送りください。別便は事務処理が煩雑になりやすく混乱の原因となりますので、ご遠慮ください。
- ・ 種子の種類が多い場合、また結実時期が異なる場合、分けてお送りいただくことはかまいませんが、同一種を分けてお送りいただかないようにお願いします。事務処理が煩雑になり、トラブルの原因となりやすくなります。

4. 種子の受付期間

この案内状が到着してから、6月5日(消印有効)までです。それ以後お送り頂いても種子リストに掲載できませんし、配布時の優待の扱いはできません。ご協力をお願いいたします。

(「第4種農産種苗」と朱書きし、開封で送ると、封筒のサイズによらず50gまで73円、75gまで110円、100gまで130円、150gまで170円で送ることができます。封筒でなく、箱でもOKです。)

5. 種子の申込み方法、配布数、配布順序など

- ・ 詳細は6月13日頃発送予定の「種子リスト」でご案内いたします。
- ・ 優先メンバー(種子提供者)には、ご希望種子を10袋まで優先的に配布する計画です。
- ・ 優先メンバーに配布後に、一般メンバーに配布しますが、一般メンバーは3袋までといたします。
- ・ 提供いただいた種子の数が少ない場合、配布できないことがあることをご承知ください。
- ・ 全体スケジュール(現在の予定です。変更の可能性もあります。)
 - 6月 5日 提供種子受付締切(消印有効)、 種子リスト作成開始
 - 6月15日 種子リストの作成、送付
 - 6月26日 希望種子申込締切(消印有効)
 - 6月30日 種子発送

6. 種子の送付先

〒223-0053 横浜市港北区綱島西6-7-16-401

西田 和憲

7. 連絡先、問い合わせ先

西田へ、郵便、メールで問い合わせてください。電話は、不在のことが多いので、ご容赦ください。

(西田)メールアドレス:kaz-tokyoseed@f03.itscom.net

(@f03 の 0 は数字の半角です。アルファベットのオーではありません。)